

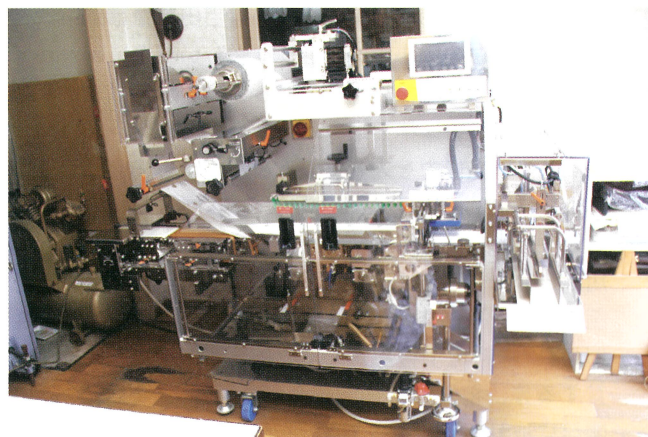
試作開発
設備投資

県産食材使用の銘菓の 最新角折ピロー包装機導入による デザイン性・生産性・ 品質保持力の向上

株式会社 お菓子のウメダ



角折ピロー包装機の特性を活かしたパッケージデザインと
地域性を打ち出し好評な銘菓「佐伯むすめ」



導入した最新鋭の角折ピロー包装機



企業情報

profile

会社名 株式会社 お菓子のウメダ
代表者 代表取締役 梅田 一弘
所在地 〒876-0012 大分県佐伯市大字鶴望2616番地の4
TEL.0972-24-1231 FAX.0972-24-1381
URL <http://www.ginjo-an.jp>
E-Mail okasino_umeda@honey.ocn.ne.jp (担当 梅田 一弘)
事業内容 食料品製造業
資本金 1,000万円
設立 1977年4月25日(創業1953年)
社員数 12人



概要

outline

全国のお菓子の消費量は、特に贈答品
において、好況・不況に係らず確実に
増え続けている。その中で、九州の老
舗菓子店で初となる角折ピロー包装
機の導入により、手造りの品質はその
ままに、品質保持力とデザイン性を劇
的に向上。さらに生産性においても
大幅なコストダウンを見込む。

背景・経緯

大手チェーン・コンビニのシェア拡大に対する、地域菓子店の挑戦

株式会社お菓子のウメダは、佐伯市に店を構える老舗菓子店。同社の『佐伯小町』をはじめとする銘菓は、その商品力において高い評価を集めており、地方の中小菓子店では稀少といわれる3年連続増収増益も実現している。手作りにこだわる高品質な自社製餡は『吟醸餡』と名付けられ、商標登録も取得。和菓子に使われ、高い人気を博している。

全国で40,000社以上ある菓子店の9割以上を占める中小零細店舗は、非常に厳しい状況に置かれている。菓子全体の消費量、特に贈答品における消費状況は好況・不況に係らず確実に増加を続けており、これに対し大手チェーン・コンビニ各社は綿密な戦略を立てシェア拡大を図っており、その一方で地域の菓子店の窮状は更に加速するといわれている。

同社では、地域の中小菓子店の優位性は「食の安心・安全」「地産地消」にあると考え、この現状を打破するために新商品開発をはじめ様々な取り組みをすることが必要と判断。商品そのものの味や品質は当然のことであるが、「デザイン力」「商品構成力」「品質保持力（賞味期限）」、増産した場合の「生産力」に大きな課題があるという結論に辿り着いた。

本事業では、上記の課題を解決するひとつの手段として、九州老舗菓子店では初となる「角折ピロー包装機」の導入に、ものづくり補助金を活用したもの。当初の申請では採択に至らなかったが、取り組み内容の吟味を重ねて事業内容を充実させていき、3度目の申請で見事に採択を得たのも、同社代表の熱意のほどが窺える。

事業内容

角折ピロー包装機導入でデザイン力、商品構成力、品質保持力、生産力を向上

角折ピロー包装機とは、饅頭など丸みのある商品を角型に個別包装する機械で、これにより手造り・高品質の吟醸餡を使用した同社の和菓子贈答品のパッケージ・デザインに広がりを持たせるもの。さらに現在は2～3日の賞味期限を10日間程度にまで伸長させて品質保持力を劇的に向上させ、生産性を高めるといったメリットも加わる。

同社では最新・精密な包装機の仕様決定から据付・試運転までを綿密に進め、導入に至った。併せて機能性の高い蒸し器も同時に設置し、包装機が有する生産性を十分発揮できるようにした。

また、かねてより懸案中だった冷凍での和菓子販売（流通）の計画をもって経営革新計画を申請し。大

分県南部保健所に指導を仰いで表示方法等を検討し、本格的な冷凍販売を推進することにより、商品ロスの半減を目指した。

このようなプロセスを経て導入した包装機を活用し、同社では県産食材を使った新商品を開発し、販路拡大のキラー・コンテンツとなるべく試作品の開発に取り組んだ。

これにより生まれた新商品が『佐伯むすめ』である。趣向を凝らした一口サイズ饅頭は、地元産味噌を使用し佐伯茶室・汲心亭でも人気の「味噌」、吟醸白餡に因尾茶と抹茶を合わせた「抹茶」、北海道小豆をそのままじっくり焚いた粒あんの「薄皮」、吟醸餡を自家製の黒糖生地で包んだ「利休」、佐伯産の紅あずま芋と紅はるか芋（甘太くん）をブレンドしたスウィートポテト生地でクリームチーズを包んだ「チーズ」の5種。いずれも地域性を打ち出しながら味と品質を極めた銘菓に仕上がっている。

成果

大手他社との差別化に成功した画期的な新商品『佐伯むすめ』がヒット

2015年3月の角折ピロー包装機導入後に開発された『佐伯むすめ』は、その特性を活かした優れたパッケージ・デザインと添加物に頼らない品質保持力が、大手チェーン・コンビニとの差別化の成功を導いた。

その反響は予想を越えて大きく、同社では人気の高まりに手応えを感じている。あわせてリニューアルした自社ホームページを通じたネット販売も好調であり、今後の展開に期待が寄せられる。

展望

全国展開を視野に入れながら地域振興にも貢献

同社では、地元百貨店のイベントや各種見本市に出展し、全国へ販路を拡大していく計画。前述の冷凍和菓子の販売も視野に入れながら、成長が見込まれている贈答品販売のシェア拡大を目指している。

ひいては本商品が持つ「手造り・地産地消」の特徴が、地域活性化に繋がることを願いたい。

まとめ

point

角折ピロー包装機がもたらした導入効果を機に、全国展開に向けた大きな前進に手応え。